

あいち農産物生産流通レポート

2026年6月号

	ページ
◎ マンスリーレポート	
・「あいち食育いきいきプラン2030」を作成しました	(食育消費流通課) 1
◎ 地域トピックス	
・豊田市茶業組合の「とよた新茶まつり・手もみ講習会」の取組について	(豊田加茂農林水産事務所) 3
◎ 東京レポート	
・物流の未来が見えた！アジア・シームレス物流フォーラム2026開催！	(東京事務所) 4
・「横浜フラワー＆ガーデンフェスティバル2026」が開催されました	(東京事務所) 5
◎ 東京都中央卸売市場における主要な愛知産青果物の動向	(東京事務所) 6
◎ 花 き	
・切花・鉢花の見通し(県内市場)	(食育消費流通課) 8

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

「あいち食育いきいきプラン 2030」を作成しました

食育消費流通課

愛知県では、食育を総合的かつ計画的に推進するため、愛知県食育推進会議を設置し、食育基本法第 17 条第 1 項で規定する愛知県食育推進計画を作成し、食育を県民運動として推進しています。

2006 年 11 月に第 1 次計画を作成し、2011 年以降 5 年ごとに見直し、第 5 次愛知県食育推進計画である「あいち食育いきいきプラン 2030」を 2026 年 3 月に作成しました。

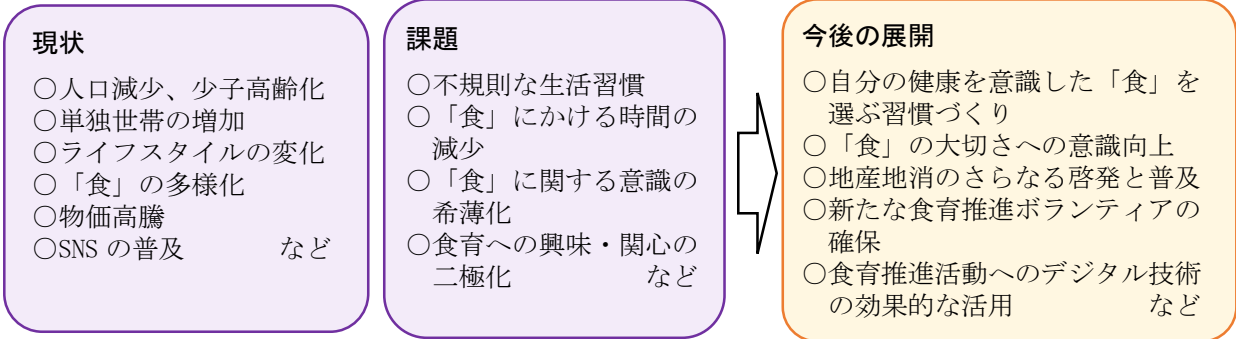
1 プランの位置づけ

- ・食育基本法第 17 条第 1 項で規定する都道府県食育推進計画です。
- ・県民一人一人が食の大切さを理解し、主体的に取り組むための指針とします。
- ・あらゆる場所や機会において、食や教育、保健医療に関する各関係者が連携・協力して愛知県における食育に関する取組を総合的かつ計画的に推進するための基本とします。

2 計画期間

2026 年度から 2030 年度までの 5 年間

3 食育を取り巻く現状と今後の展開



4 目指す食育の姿と取組の方向

「食を通じて健康な『体』をつくる取組」、「食を通じて豊かな『心』を育む取組」、「食を通じて『環境』に優しい暮らしを築く取組」に加え、「食育を『支える』取組」の 4 つの取組を推進し、健康で活力ある社会の実現を目指しています（図 1）。

「あいち食育いきいきプラン 2030」では、これまでの食育の取組を「継承」するとともに、

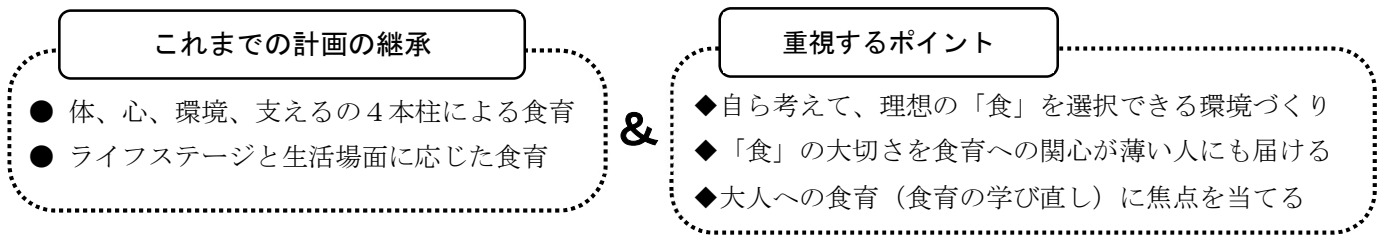
- ▶ 自ら考えて、理想の「食」を選択できる環境づくり
- ▶ 「食」の大切さを食育への関心が薄い人にも届ける
- ▶ 大人への食育（食育の学び直し）に焦点を当てる

の 3 点を重視するポイントとし、
県民一人一人が「食」について考えて選ぶこと『 **Think & Choice** 』をテーマに掲げています（図 2）。

<図1：取組の体系>



<図2：プラン2030の特徴>



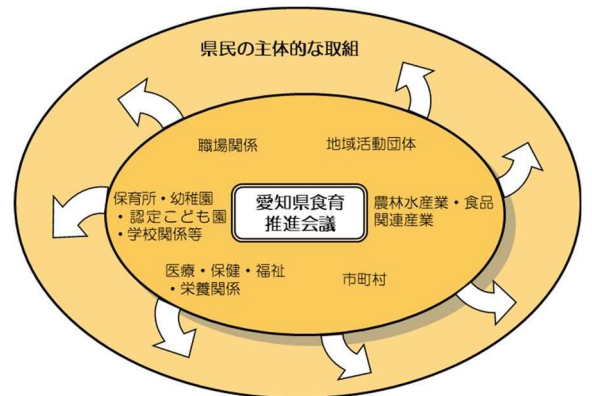
テーマ：Think & Choice

- ・「食」をめぐる環境変化の中でも、県民一人一人が「食」について考えて選ぶことを大切にする
- ・“Choice”には“最高”という意味もあり、一人一人ができる最善の選択をとという思いも込めている
- ・「食」の大切さへの“気づき”を積み重ねることで、自分なりの食生活を“築き”あげていく

<図3：取組の展開イメージ>

5 取組の展開方法

- (1) 県民が心身ともに健康で豊かに暮らすために、乳幼児期から高齢期に至るまでのライフステージと生活場面に応じ、生涯を通じた食育を進めます。
- (2) 食にかかわる多様な関係者が各々の役割と特性を生かしつつ、相互に連携・協力し合い、県民の主体的な食育の取組を促します（図3）。



6 その他

- ・第5次愛知県食育推進計画「あいち食育いきいきプラン 2030」が御覧いただけます。
愛知県のHP <https://www.pref.aichi.jp/press-release/shokuikuplan2030.html>
- ・愛知県の食育のいろいろな情報が御覧いただけます。
「食育ネットあいち」 <https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/>

豊田市茶業組合の「とよた新茶まつり・手もみ講習会」の取組について

豊田加茂農林水産事務所

豊田市茶業組合（組合員 21 名）は、2026 年 4 月 20 日に豊田市豊栄町のいしかわ製茶工場で、茶摘み体験と手もみ講習会を開催しました。

この行事は、茶摘みや製茶技術の基本である茶の手もみを体験してもらい、新茶の季節到来を地域の方々、関係機関、報道機関にPR するために、約 30 年前から行われています。

近隣のこども園の園児 90 人や豊田市茶業組合員（以下、組合員）を始め、来賓として豊田市長、衆議院議員、県議会議員、市議会議員、あいち豊田農業協同組合長、豊田加茂農林水産事務所長が参加しました。



来賓あいさつ

1 茶摘み体験

当日は晴天に恵まれ、100 人超の参加者が茶摘みを体験しました。

組合員は参加者に対して、黄緑色で柔らかい芽を選び、「一芯二葉」摘むように呼びかけました。また、摘んだ茶を持ち帰り、天ぷらに調理すると美味しく食べられると勧めていました。

石川龍樹組合長は「茶の生育状況は、茶園毎にばらつきがあるが、暖かい日が続き良好。」と話しました。



組合員に教わりながら茶を摘む園児

2 手もみ講習会

手もみ製法では、機械で蒸して発酵を止めた茶葉を、手作業で 6～8 時間かけて乾燥させます。参加者は、ガスバーナーで熱せられた台の上で、素手で茶をもむ製茶技術の基本を組合員から順番に学び、難しさや大変さを実感していました。

豊田市茶業組合では、4 月下旬から 5 月上旬にかけて各茶園で手あるいは機械で茶を収穫します。新茶は 5 月中旬から店頭並んでいます。



組合員に教わりながら茶の手もみを行うとよたPR大使

物流の未来が見えた！アジア・シームレス物流フォーラム 2026 開催！

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

生産から販売までのサプライチェーンに関する最新技術・製品・政策動向を共有する総合イベント「アジア・シームレス物流フォーラム 2026」（主催：一般社団法人 日本マテリアルフロー研究センター）が、2026年5月14日（木）～15日（金）に東京流通センター（東京都大田区）で開催されました。取材した14日（木）は、物流に関する政策や改善事例の講演がありましたので、その概要を紹介します。

1 最近の物流政策について

○物流効率化法

2025年4月から物流効率化法が施行され、物流のさらなる効率化を図るため、すべての荷主および物流事業者に対し、①積載効率の向上、②荷待ち時間の短縮、③荷積み・荷下ろし作業等の時間短縮に取り組む努力義務が課されました。さらに、2026年4月からは、一定以上の貨物を取り扱う企業に対して、物流効率化の取組計画の作成・提出や定期報告の実施、物流統括管理者（CLO）の配置などが義務付けられました。

○農産物輸送の課題

農産物の輸送は、トラックに依存、鮮度管理が必要、出荷量が天候で変動する、手作業が多いといった特徴があり、非効率で現場負担が大きい。特に、トラックの長時間待機や積み下ろし作業の役割不明確などの課題があります。これに対し、パレットを活用した作業効率化、注文や情報共有のデジタル化、契約内容の明確化、モーダルシフトが進められています。



セミナー会場の様子

2 物流改善事例の紹介

物流改善の具体的な方法として、パネルディスカッションの中でDXの活用事例が紹介されました（表）。

「DXは単なるIT導入ではなく、経営改革そのもの」、「物流改善はまず始めることが大切で、データの可視化はその第一歩である」と説明がありました。

大田市場は、バース予約システム「MOVO Berth」を導入し、荷待ち時間の短縮を図っており、物流DXを進めています。

表 DX導入事例と改善結果

DX導入事例	物流現場で改善できたこと
BIツール※1	データを統合・可視化、集計作業の労力を削減
バース※2予約システム、受付システム	トラック入退場のデジタル化、待機時間の可視化・短縮
受領書の電子化、クラウド管理	問い合わせ対応の時間の短縮、年間作業時間5,000時間削減

※1 BI（ビジネスインテリジェンス（Business Intelligence））ツールとは、データを見える化し、分析・判断を助けるツールのこと。

※2 バースとは荷物の積み下ろし場所のこと。

「横浜フラワー&ガーデンフェスティバル 2026」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2026年5月2日（土）から4日（月）にかけて、横浜市西区にあるパシフィコ横浜で「横浜フラワー&ガーデンフェスティバル 2026」（主催：横浜フラワー&ガーデンフェスティバル2026実行委員会 他）が開催されました。2024年から始まり3回目となる今回のイベントは、子供から大人まで幅広い世代が園芸の楽しみを共有し、花きの魅力を感じられる様々なコンテンツが盛り込まれており、多くの来場者でにぎわっていました。また、2027年3月に横浜市での開催を控えた2027年国際園芸博覧会「GREEN×EXPO2027」が大々的にPRされていました。初日に取材しましたので、その概要を紹介します。

1 花きの魅力を伝えるコンテンツ

(1) 花の楽しみ方を伝える講演

園芸デザイナーの三上真史（みかみまさし）氏による講演「酷暑に負けない！耐暑性植物でつくる立体寄せ植え」や、洋ラン育種家の半谷輝己（はんがいてるみ）氏による講演「洋ラン（カトレヤと胡蝶蘭）の魅力と育て方」がありました。

三上氏は、夏季の高温多湿な屋外でも花を咲かせて楽しむことができる千日紅やペチュニア等を紹介し、つる性のイポメアは支柱に這わせることでムレを防ぎ旺盛に育てることができると解説しました。ステージ上では実際に寄せ植えを行いました。

半谷氏は、洋ランを長く楽しみ、育てるために必要とされる光量や気温、かん水のタイミングについて説明し、根の構造や光合成の仕組みについて解説しました。

(2) 最新品種の展示と人気投票

新品種を展示する企画「ジャパンセレクション」が開催され、アジサイやカーネーションなどの鉢物30点と、菊やバラ、ガーベラなどの切花27点が出品されました。出品物には花の咲き方や特徴、名前の由来など、品種の魅力をPRする解説が添えられており、来場者が参加した人気投票が行われました。



ジャパンセレクションの様子

(3) 体験型のワークショップ

子供が楽しめる体験型コンテンツとして、肥料を混ぜ込んだ土ダンゴの中に花の種を入れて、そのまま家庭で植え付けに使える「たねダンゴ」作り体験や、芳香バラを使ったフラワーアレンジメント教室が開催されていました。

2 「GREEN×EXPO2027」開催に向けた機運醸成

会場内のPRブースでは、公式マスコットのフォトスポットが設置されていました。また、公式グッズショップでは、前売券が販売されていました。さらに、イベントステージで「GREEN×EXPO2027」開催中にアテンダントスタッフが着用するユニフォームのお披露目会が行われました。



「GREEN×EXPO2027」公式マスコット
「トウクントウク」フォトスポット

様々な園芸コンテンツや、「GREEN×EXPO2027」PRブースに多くの来場者が集まる様子から、花きへの関心の高まりや「GREEN×EXPO2027」開催への期待が感じられました。

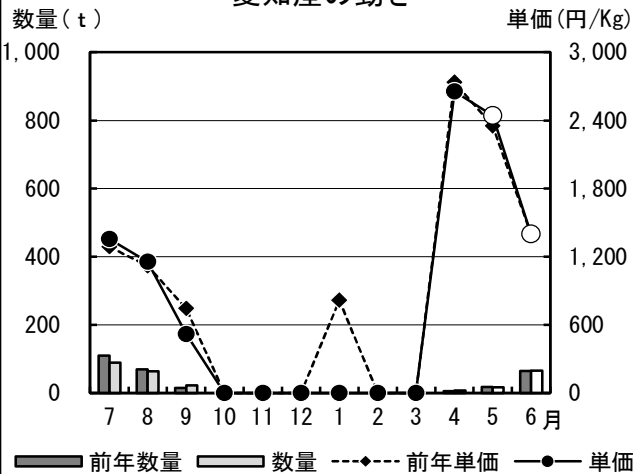
東京都中央卸売市場における6月の主要な愛知産青果物の動向

1 翌月の見通し

品目名 ハウスみかん

実績等		区分	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地 (%)	市場からの提言等
実績	2021年		639	1,078	佐賀 78%	愛知県産は果物専門店や百貨店からの引合いが強く、市場評価が高くブランド力がある。一方で、猛暑による上位等級の減少や京浜市場向け輸送便の減少により、入荷量の不足が懸念される。安定販売のために輸送体制を確保し、需要期の出荷数量維持を求めたい。
	2022年		683	1,107	愛知 12%	
	2023年		695	1,152	大分 4%	
	2024年		553	1,216		
	2025年		526	1,304		
5カ年平均			619	1,171		
2026年見通し			525	1,330		

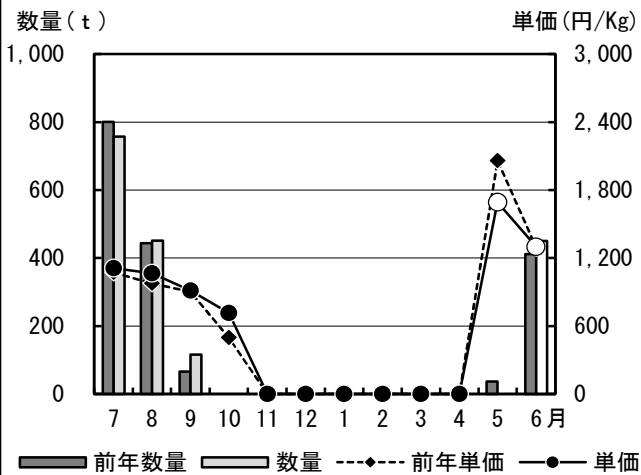
愛知産の動き



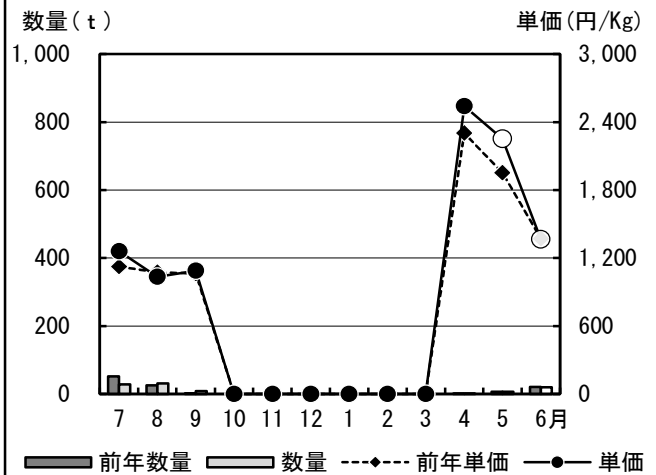
産地概況

本県の主な産地である蒲郡は、中旬に入荷ピークを迎える見込み。これまでの干ばつ傾向から一転して降雨があり、玉サイズは小玉傾向よりも若干大きくなる。美浜は下旬から出荷が始まり、数量は前年よりわずかに増える見込み。田原は上中旬から出荷開始予定で、大きさ、酸度も良好。S・Mサイズ中心。
競合産地の佐賀は、中旬から「上野早生」が入荷ピークを迎え、数量は前年よりやや増加する見込み。大分の数量は前年よりやや減少する見込み。

競合産地の動き (佐賀)



競合産地の動き (大分)



2 入荷量・価格の動き

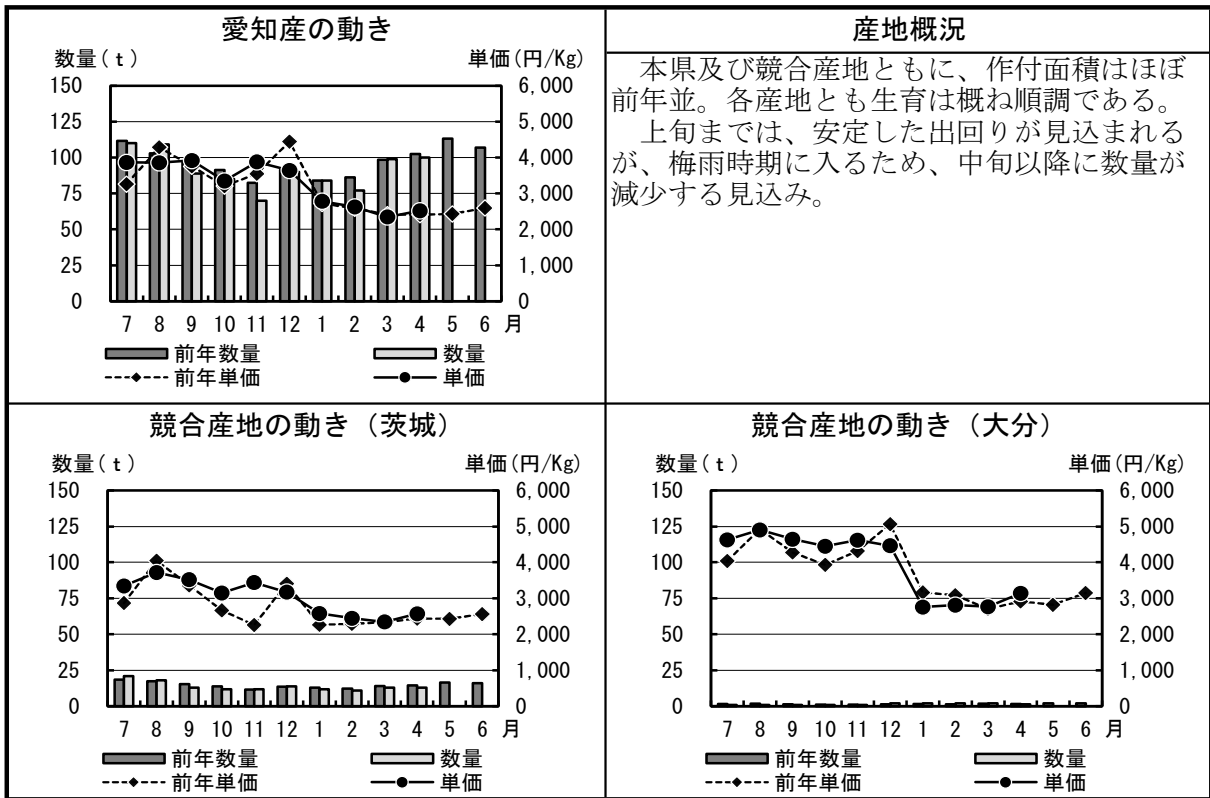
品目名 おおば

前年上位3産地 (%)

愛知 85%

茨城 13%

大分 1%



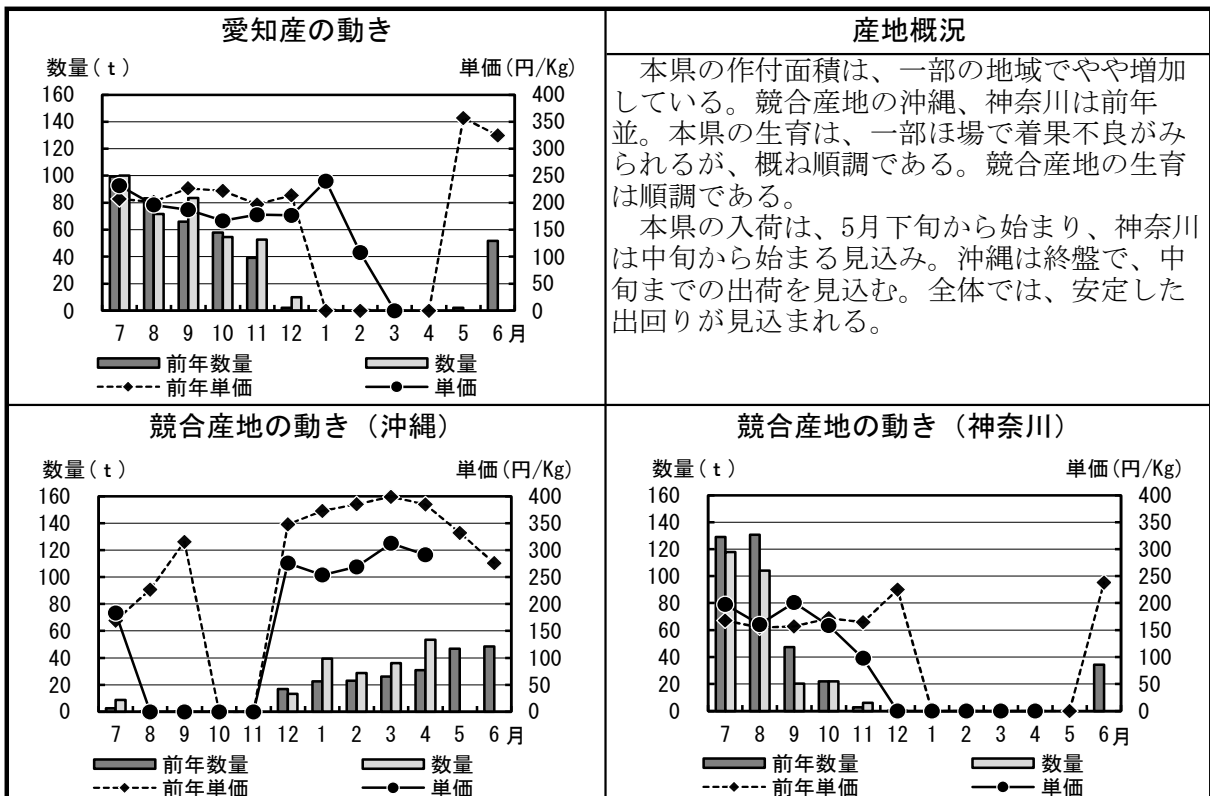
品目名 とうがん

前年上位3産地 (%)

愛知 27%

沖縄 25%

神奈川 18%



切花・鉢花の6月の見通し

前年-数量 (点線) 前年-単価 (実線)
 当年-数量 (黒線) 当年-単価 (点線)

切花 (愛知名港花き地方卸売市場 5月現在)

単位: 千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2021年	1,334	39	
		2022年	1,360	38	
		2023年	1,081	45	
		2024年	1,379	30	
		2025年	1,306	36	
	5か年平均	1,292	38		
2026年	1,300	35			
概要	愛知中心の入荷。入荷量は平年並みと見込まれる。需要が弱い時期なので、価格面では軟調に推移しそうである。				
小 ぎ	実績	2021年	902	42	
		2022年	1,078	24	
		2023年	1,000	27	
		2024年	928	21	
		2025年	813	22	
	5か年平均	944	27		
2026年	850	22			
概要	愛知、沖縄から入荷。季咲品種が多く、色バランスに偏りが出やすい。一般需要が弱い時期なので相場は弱い見込み。				
カー ネー ション	実績	2021年	776	53	
		2022年	836	49	
		2023年	865	72	
		2024年	866	45	
		2025年	1,012	44	
	5か年平均	871	53		
2026年	1,000	45			
概要	5月下旬から準高冷地長野県産の出荷が始まり、産地のリレーが進む。愛知県産は順次、次回作の作業に入り、中旬頃を目途に終了する見込み。				
か す み	実績	2021年	101	110	
		2022年	108	107	
		2023年	116	98	
		2024年	135	80	
		2025年	131	85	
	5か年平均	118	96		
2026年	130	85			
概要	西南暖地が終了し、長野県に加え、福島県産も始まる。気温が高いため、1週間ほどの前進傾向となっており、6月上旬から入荷数量は多い見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2021年	249	146	
		2022年	251	155	
		2023年	241	148	
		2024年	233	138	
		2025年	212	157	
	5か年平均		237	149	
	2026年		200	160	
概要	オランダ球根の納入遅れから、下旬に局所的な出荷量増見込まれるが、西南暖地については作付が減少しており、入荷数量は多くない見込みである。				
洋らん	実績	2021年	209	103	
		2022年	219	107	
		2023年	203	116	
		2024年	203	102	
		2025年	176	121	
	5か年平均		202	110	
	2026年		180	120	
概要	鹿児島、愛知、静岡、輸入品が入荷する。オンシジウムは上位等級中心に入荷し、増加の見込み。デンファレは雨期の為全体的に入荷減。シンピジウムは国産が終了し、輸入の入荷待ち。カトレアは月内やや出荷量減少でコショウランは輸入国産共に安定入荷の見通し。				
ばら	実績	2021年	680	56	
		2022年	834	56	
		2023年	773	61	
		2024年	690	59	
		2025年	769	59	
	5か年平均		749	58	
	2026年		770	60	
概要	愛知、岐阜、三重、高冷地からの入荷。ローズの日のイベントから始まり、父の日とイベント需要が期待される。入荷量は例年並みを予想。				
枝も	実績	2021年	969	60	
		2022年	1,077	64	
		2023年	1,081	63	
		2024年	997	64	
		2025年	984	66	
	5か年平均		1,022	63	
	2026年		1,000	65	
概要	気温が上がりに、山取りのドウダンなどの数が少なくなっていく。アリアムなどは終盤を迎え、姫ガマ、ベビーハンズ、スモークツリー、フサスグリ等が順調出荷となる。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
アン ス リ ウ ム	実 績	2021年	19,615	967	
		2022年	22,192	975	
		2023年	25,502	949	
		2024年	20,745	955	
		2025年	21,846	959	
	5か年平均		21,980	961	
	2026年見通し		21,000	980	
概要	<p>入荷量は前年並からやや減少か。出荷の中心は4号～6号での出荷がメインと思われる。輸入苗の高騰による注文単価の上昇及び母の日迄の販売好調を踏まえると平均単価は上昇する見込み。</p>				
フ ア レ ノ プ シ ス	実 績	2021年	19,575	3,715	
		2022年	23,756	3,200	
		2023年	24,379	3,303	
		2024年	18,691	3,637	
		2025年	22,152	3,432	
	5か年平均		21,711	3,439	
	2026年見通し		23,000	3,348	
概要	<p>大輪系入荷量は前年並からやや増加か。4月の低温により若干の開花遅れが見られる。ミディー系は例年並の見込み。株主総会系の業務需要に期待したい。</p>				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	2021年	23,245	158	
		2022年	21,779	166	
		2023年	19,839	129	
		2024年	22,363	133	
		2025年	17,982	123	
	5か年平均		21,042	143	
	2026年見通し		17,800	124	
概要	<p>入荷量は前年並からわずかに減少か。例年通り中鉢以上の仕立て物は上旬で概ね終了。通年出荷の3～4号サイズが入荷の中心となる見込み。気温の上昇に伴い需要は減少傾向で、中値～安値安定で前年よりも相場は厳しくなる見込み。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイ イ ド ラ ン	実 績	2021年	51,767	611	
		2022年	71,765	547	
		2023年	59,743	508	
		2024年	45,224	591	
		2025年	55,697	618	
	5か年平均	56,839	571		
2026年見通し	55,000	618			
概要	<p>入荷量は前年並からわずかに減少か。品種物主体で5号の玉咲きが主体である。4号は少ないが3～3。5号のポット物が少々増える傾向、尺～7号クラスの大きいサイズは減少傾向にある。梅雨時期に入りアナベル類の引き合いが強くなる見込み。</p>				
ス パ テ イ フ イ ラ ム	実 績	2021年	14,644	268	
		2022年	8,967	359	
		2023年	6,741	369	
		2024年	5,175	335	
		2025年	5,388	362	
	5か年平均	8,183	325		
2026年見通し	4,500	420			
概要	<p>入荷量は前年より大幅に減少か。前年同様に作付量の減少、規格が3. 5号未満の苗生産が減り、4号以上が中心となる事が要因。生産者が減る事で注文の比率が上がり、規格が大きくなる事で鉢単価も上がる為、価格は前年より上昇すると思われる。</p>				
ド ラ セ ナ 類	実 績	2021年	22,752	948	
		2022年	28,088	1,286	
		2023年	18,126	1,106	
		2024年	17,812	1,013	
		2025年	19,573	1,111	
	5か年平均	21,270	1,105		
2026年見通し	18,000	1,100			
概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少か。鹿児島・沖縄での生産が減少している為、地元中心になる見込み。数年前より輸入原木が高騰・減少のため、入荷量減少の見込みとなり、4号～8号がメインとなる。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.634
2026年6月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434